

授業科目	生活環境科学特論 Living Environmental Sciences			担当教員	※長岡 寛明		
展開方法	講義	単位数	2単位	開講年次・時期	1・2年／前期	必修・選択	選択
授業のねらい							
<p>経済の発展や人口増加に伴い、地球温暖化現象、オゾン層の破壊、酸性雨、生物多様性の減少、森林破壊、砂漠化、海洋汚染、土壌汚染、廃棄物、化学物質など地球環境にかかわる諸問題が顕在化している。本特論では、地球温暖化、生物多様性、循環型社会、大気環境、水環境、土壌環境、海洋環境を取り上げ、特に、人の健康と環境の関係、環境問題の成因と人への影響、食物連鎖を介した生物濃縮、化学物質の環境内動態と人への影響、大気汚染の健康影響、室内環境の人への影響などについて解説や討論を行い、人がより健康で健やかな生活が送れる生活環境について、具体案を科学的に思考し、実行できる能力を養う。</p>							
	学生の授業における到達目標			評価手段・方法	評価比率		
関心・意欲・態度	身の回りの生活環境について関心を持ちながら、意欲的に学修できる。			レポート	50 %		
思考・判断	身の回りの生活環境について正しく理解し、判断できる。			レポート	10 %		
技能・表現	身の回りの生活環境について、自分の考えに基づいて的確に表現できる。			質疑応答	20 %		
知識・理解	身の回りの生活環境について説明できる。			レポート	20 %		
出席						受験要件	
合計						100%	
評価基準および評価手段・方法の補足説明							
課題レポートの内容、口頭試問、筆記試験で総合的に行う。							
授業の概要							
<p>参考資料、参考文献を用いて、講義形式で行う。 また、課題レポートの発表を行い、その内容について討議を行う。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に指定しない 参考書：環境白書 環境省 指定図書：環境白書 環境省</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>学部のとときに修得した知識と技術を活用して、さらに今日的な諸問題を学ぶことになるので、新聞やニュースなどにも心配りをし、たくさんの知識を身につけてほしい。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	地球温暖化	地球温暖化問題の現状	資料を確認し、専門書で、地球温暖化の現状等を予習・復習する。
2		地球温暖化対策に係る国際的枠組の下での取り組み	資料を確認し、専門書で地球温暖化対策に係る国際的枠組等を予習・復習する。
3		地球温暖化に関する国内対策	資料を確認し、専門書で、地球温暖化に対する国内政策を予習・復習する。
4	生物多様性の保全	生物多様性の現状と対策	資料を確認し、専門書で生物多様性の現状、対策を予習・復習する。
5		生物多様性を社会に浸透させる取り組み	資料を確認し、専門書で、生物多様性を社会に浸透させる取り組み等を予習・復習する。
6		地球規模の視野をもって行動する取り組み	資料を確認し、専門書で、地球規模の取り組みを予習・復習する。
7	循環型社会の形成	循環型社会の形成に向けて	資料を確認し、専門書で、循環型社会等を予習・復習する。
8		廃棄物等の発生、循環的な利用及び処分の現状	資料を確認し、専門書で、廃棄物等の発生・利用・処分の現状等を予習・復習する。
9		国内・国際的取り組み	資料を確認し、専門書で、廃棄物の国内外の取り組み等を予習・復習する。
10	大気環境	大気環境の現状	資料を確認し、専門書で、大気環境の現状等を予習・復習する。
11		大気環境の保全対策	資料を確認し、専門書で、大気環境の保全対策等を予習・復習する。
12	水環境	水環境の現状	資料を確認し、専門書で水環境の現状等を予習・復習する。
13		水環境の保全対策	資料を確認し、専門書で、水環境の保全対策等を予習・復習する。
14	土壌環境	土壌環境の現状と保全対策	資料を確認し、専門書で土壌環境の現状、保全対策等を予習・復習する。
15	海洋環境	海洋環境の現状と保全	資料を確認し、専門書で、海洋の現状・保全対策等を予習・復習する。
16	まとめ	授業を振り返り、まとめを行う。	提示されたテーマについてレポートをまとめ、発表する。

